

若い女性こそ がん検診を

がん社会 を診る

中川 恵一

り返して大きくなったもので、どちらもありシナルの遺伝子をそのまま共有する「クローン生物」です。

ソメイヨシノは、開花も散り際も見事に同期します。がんの全身転移に使う抗がん剤も、どの臓器への転移であろうと同じように効果を発揮します。クローン生物であるソメイヨシノやがん細胞が、同じ遺伝子を受け継いでいるからです。

さて、桜の季節は新入社員

が会社に登場する季節。今回は特に若い女性社員にメッセージを送りたいと思います。会社員の死因の半数はがんにより、病死に限ればがんが原因の9割近くを占めます。がんは社会人にとって大きな壁といえるでしょう。

がんは細胞の老化といえる病気です。急速な高齢化とともにがんは急増しており、日本男性の3人に2人、女性でも2人に1人が生涯にがんにかかります。

男性の方が女性よりがんが多い背景には、喫煙や飲酒の男女差があります。しかし50歳代半ばまでは、女性の方ががんが多いことを知っておく必要があります。

30〜40代では、女性のがん患者は男性患者の2倍にもなり、特に40歳未満ではがん患者の約8割が女性です。これは乳がん、子宮頸(け

い)がんが若い世代に多いからです。

女性も当たり前に仕事を持つ時代、働くがん患者には女性が多いことになりました。60歳未満の世代でみれば、働きながら通院するがん患者の数は、女性が男性の3倍以上になります。

女性は若いころからがんを意識して生活すべきです。特に子宮頸がんについては、厚生労働省も20歳から検診を受けるように推奨しています。しかし20代前半の受診率は15%にとどまります。

子宮頸がんの発症原因のほぼ100%が性交渉に伴うウイルス感染です。セックスデビューの前のワクチン接種がもっとも有効ですが、接種の通知が差し控えられた1997〜2005年度生まれの若い女性も「キャッチアップ接種」を無料で受けられます。早くから、自分で自分の体を守る意識を持ってもらいたいと思います。

今年の桜の開花は例年になく早くまりました。東京では満開のタイミングで無情の雨。「世の中にたえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし」です。日本人の心情は平安の昔からあまり変わっていないのかも知れません。

代表的な桜、ソメイヨシノ

はがん細胞に似ています。幕

末の江戸で人工交配によって

作られた雑種が、挿し木で日

本ぞして世界へと広がりまし

た。がんは、たった一つの「不

死細胞」がクローン増殖を繰



イラスト 中村 久美